

平成28年度 12月号



新座二中だより

新座市立第二中学校
新座市野火止 7-17-10
電話 048-477-1212

<http://www.c-niiza.ed.jp/j-daini/>

子どものみずみずしい感受性を大切にする教育を実現します

校長 田村 和昭

自然の驚異

11月下旬に立て続けにあった早朝の地震には不安を感じました。東日本大震災の記憶がよみがえった方も多かったのでは。そして、先週の大雪です。11月に雪が積もるのは、観測史上初めてとのことでした。改めて自然の驚異を知らされました。

自然への畏敬の念とは

人は自然の美しさに触れ、自然と親しむことにより自らの人生を豊かにしてきました。自然愛護の精神は、このような心もちに起因していると思います。しかし、自然を愛護するということは、人間が自然の主（あるじ）となって保護し愛でることではなく、自然の生命を感じ取り共に生きようとする対し方であればならない。

畏敬とは、「敬う」という尊敬・尊重と、「畏れる」というその大きな力に対して礼儀を正すという意味を併せもちます。

自然との関わりを深く認識すれば、人間は様々な意味で有限なものであり、自然の中で生かされていることを自覚するものです。この自覚とともに、人間の力を超えたものを素直に感じとり、畏敬の念が芽生えてくるのです。

また、この“人間は有限なものである”という自覚は、自他の生命の大切さや尊さ、人間として生きることのすばらしさの自覚につながり、とかく自分勝手になりやすい人間の心を反省させ、生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の心を生み出していくものなのです。



自然は人間の苗床

「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」、「太陽が昇るところや沈むところを見たこと」、「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」といった自然体験の豊富な子どもほど、「友達が悪いことをしていたら、やめさせる」、「バスや電車で席をゆずる」といった道徳観・正義感が身についているとの調査結果があります。

さらに「食器をそろえたり、片付けたりすること」、「新聞や郵便物をとってくること」、「ペットの世話とか植物の水やりをすること」といったお手伝いをしている子どもほど、同じく「道徳観・正義感」が身についていると。

「自然は人間の苗床」と言われるように、幼児期から自然との触れ合いの機会を多くもたせることは、子どものみずみずしい感受性や五官を刺激することに不可欠なのです。

第二中学校では自然の驚異から学び、子どものみずみずしい感受性を引き出し、感謝と尊敬の心をはぐくむ教育活動に取り組んでまいります。